

くらし

大分 一人暮らしの障害者 火災で死亡

自立生活へ道半ば

大分県別府市のマンションで先月、一人暮らしをしていた障害者の女性が火事で死亡した。女性は自らの意思で親元も施設も離れて生活し、重度の障害克服を目指す「自立生活運動」の積極的な実践者だった。出火原因は不明だが、福祉機器が火元となった可能性も指摘されている。

事件があったのは四月二十一日。午後二時八分、マンション六階に住む五十嵐えりさん(三三)から消防に電話が入った。「火事です。部屋が燃えています」。二分後に再び通報。「障害者なので助けません。助けてください」

最初の通報から四分後の二時十二分、消防隊がマンションに着き、はしこをかけて二階から館内へ進入。踏み込んだ部屋には煙が充満し、寝たきり生活の五十嵐さんが横たわる電動介護用ベッドは火に包まれてい

先駆的マンションで悲劇



別府署などによると、焼損したのはベッドとその周(つい)を損傷。その後、出回らずか四平方メートル。健康者であれば、逃げ遅れることはない(消防幹部)という火事だった。

現場は全国でも珍しいパリアフリー、オール電化のマンションに同居した。障害者向けマンションだった。四年前のリハビリや職能訓練を経て二〇〇五年四月、完成したばかりのこのマンションに入居した。

女性が死亡する火事があった大分県別府市内の障害者向けマンション

福祉機器のメンテに問題？

ヘルパーの介助を得て一人暮らしを始め、館内二階の「自立支援センターおおい」に勤務しながら、ほかの障害者の自立を支える活動に取り組んでいた。

昨年、障害者の次世代リーダー育成を目的に東京で開かれたセミナーで五十嵐さんは、自立生活を「自由で充実している」と紹介。「同じような暮らしを、ほかの人にもさせてあげたい」と活発に発言していた。

五十嵐さんの介護ベッドの上にあった床擦れを防ぐための電気機器が激しく燃えており、別府署は出火原因との関係を詳しく調べている。

障害者の自立支援活動の中で、以前から福祉機器の取り扱いの難さを訴える声があった。NPO法人「町田ヒューマンネットワーク」(東京)の関根善一さん(五三)は「福祉機器は開発が進んでいるが、メンテナンスや補助が伴っていないことが多い。車いすの修理一つをとっても、大量に発注する施設や病院が優先され、個人は後回しにされがちだ」と問題点を指摘する。